

総務文教委員会記録

令和3年12月16日（木）

16時21分～17時5分

第1委員会室

【委員】 永見委員長、三浦副委員長
肥後委員、大谷委員、芦谷委員、佐々木委員、西田委員

【委員外】

【議長団】

【事務局】 下間書記

【議題】

1 今後の取組課題等について（委員間で協議）

2 その他

【議事の経過】

[16 時 21 分 開議]

永見委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。

1. 今後の取組課題等について（委員間で協議）

永見委員長

去る11月30日の総務文教委員会において委員のご協力をいただき、提出いただいた政策テーマについて、いろいろとご意見をいただいた。今後、総務文教委員会として取り組む課題について決定して、やっていきたい。

課題を決定していききたいが、今後どのようにして決定していくか、今日は皆のご意見を伺いながら進めたい。いかがだろうか。

皆にあのようにそれぞれテーマを出していただいたので、お聞きいただきいろいろと練られたと思うが、どのような形で決定すればよいかも、意見を交わしながら決めさせていただければと思うが、いかがか。考えをお聞かせいただきたい。

芦谷委員

私は市政参加と示しているが、この中身が協働のまちづくりに関するものなので、先の議会運営委員会でもあったように、どうもこれについては特別委員会が設置される方向なので、私が提案した市民の市政参加については、今回はこの総務文教委員会ではやめたらと思っている。ほかをぜひ検討してほしい。

永見委員長

芦谷委員から、提案いただいた市民の市政参加については、特別委員会との兼ね合いも予測されるため、ほかのテーマでとのお話をいただいた。

そのほか、皆から何かないか。

西田委員

ふわっとしたものしかないのだが、前回の総務文教委員会のテーマが幼児教育に焦点を当てていた。今、確かに幼児教育をやったのだが、この中で大谷委員は、高校生や県立学校の関係、芦谷委員は地域の中でのまちづくり、人材育成を含んだまちづくり、三浦副委員長の公民館のあり方、まちづくりセンターの活用、そういったところも全て活用するにしても、私はずっと浜田に住んでよかったと思えるようなこと、これもまちづくりなのだが、根底には全て人材育成がある。

幼児教育は前回やった。やはり各地域、あるいは各職場、あるいは各教育現場、あるいは浜田市に住んでいる全ての市民、広く言えば浜田の市民、そういった中でそれぞれの地域や職場や教育環境、自分のそれぞれの立場の中でいろいろな課題があると思う。全て共通するのは人材に共通していくのではないかという気がしている。そういった人材をそれぞれの立場で、役割などをしっかりと明確に、持ち場ごとに意識しながら地域内で前向きにやっていくことができるような、そういう意識をしっかりと持てるような、そういうための条例制定なり、何らかの方向性で進められたらよいという、ふわっとした気持ちがある。

永見委員長
肥後委員

ほかに。皆にそれぞれ思いをお聞かせいただければ。

先日、議会広報広聴委員会で大谷委員と一緒にインタビューさせてもらって、三浦副委員長も写真撮影で来ていただいたのだが、大谷委員は

総務文教委員会での政策テーマ、県立大学との連携強化策についてということで、前はそんなのかというくらいの感覚でおられたのだが、実際に県立大学生と話をさせてもらった中で、すごく興味が湧いてきて、こういう情熱がある若者と一緒にまちづくりができるようであれば、浜田市も変わっておもしろいと思った。

総務文教委員会の取り組みとして、前は幼児教育ということで、今回は大学生との連携強化。高大連携という言葉がこの間初めて聞いて、そういうものがもう実際に動いているし、もっとバックアップができるようであれば、浜田市としてもよいことだと思ったので。前はそこまでは全然思わなかったのだが、実際にインタビューを通じて自分ごととして捉えたときに、やりがいも、おもしろそうだ。市政にとってもよいことで、また地域の活力、地域住民の参加によって、例えば最近はいけませんが落ち葉を燃やしたりするのに、枯葉と青葉を一緒に燃やすとよく燃えるというのがある。そういう面で人材も、若者からお年寄りまで一緒になってそれぞれのよさと知恵を出し合うのは、地域力活性化によいことだと思った。

佐々木委員

自分は二つ挙げているが、ほかの人のもよいと思いながら見ていた。今も肥後委員が言われたように、高校生と大学の連携。ありそうで今まであまりなかった気もするし、そこに議会がかかわって何かしらつくっていくのは非常に意義があると感じている。

肥後委員のデジタルトランスフォーメーションというのは意味がよくわからないのだが、この間、地元の美川小学校を視察した。その視察理由というのが、タブレットが各学校に入って美川小学校だけ全教室に電子黒板が配備されていて、なぜ美川小学校は配備されたかということ、学校に大きなテレビを導入して、それで授業をやっているところがかなりあるようなのだが、美川小学校はテレビが1台しかなく、ない教室全部に電子黒板が入ったということだった。授業も少し見たし、後で校長や教頭や先生に話を聞くと、2、3年前からの授業からすると大きく内容ややり方が変わっている。非常に先生方の負担も少なく、黒板を消したり書いたりはしないので、もうさっとやれる。しかもパワーポイントを使っている授業もあるようで、学校の授業そのものがこの2、3年で、がらっと変わっている状況がある。

僕も何となく、タブレットで変わってきたのかなと思うが、それ以上に何倍も変わっていて、これには非常にお金が必要かかってくる。ということもあって、その辺の今後の予算取りが必要なので、ぜひこういった方向に進めてほしいということ強く要望された。

そういったことも各学校を見ながら。このデジタルトランスフォーメーションというのがどういうものかわからないが、ICTを使ったことで子どもたちの授業内容が大きく変わっている現状をこの委員会としてさらに進めていくような取り組みも、少し重要かなと。転換期なので。そういうことも感じたし、あとは三浦副委員長が言われているダイバーシティ、深い意味がよくわからないが多様性を認めていく社会にしようとするといった意味合いではないかと思うが、これについては、執行部もまだ全然手をかけてないところなので、内容としては割と取り組みや

すい感じもしている。

先ほど芦谷委員は、特別委員会ができるからと言われたが、特別委員会はどうなるかわからないので、本来は特別委員会をつくらなくてもこの委員会でやればよいことだと思う。まちづくりについて大枠でやると大変だが、条例の中身の取り組み方法や、あと三浦副委員長が挙げられているまちづくりセンターの具体的な内容を聞き取りしながら議会のできることを取り組むとか。そういったことでまちづくり推進条例、まちづくりセンターにかかわるようなことを進めるのもよいかと。自分のもよいが人のもよい。

永見委員長
大谷委員

ほかに。

自分は県立学校との連携強化策を挙げさせてもらっているが、重複して申しわけないが、市内には複数の学校があるので、一つの括りとして支援するためにはコンセンサス、合意を得るにはそれ相応の時間も要るだろうから、問題が顕在化した状態で始めると遅くなる、後手になる。それはまずいだろうということで、早目に意識を持ってやっていただけたらよいという思いで問題提起させていただいている。

自分としては、出しているのをお願いしたいところだが、ほかの方々の優先順位が高いものがあるのであれば、その体制には従いたいとは思っているが、一応そういう問題提起は認識しておいていただいた上で、今回取り上げることがないとしても、近々のうちには考えていかなければいけない問題だろうという認識は持っていたけるとありがたい。

三浦副委員長

皆それぞれのご意見はどれも重要だなということで、どれがよくて、みたいな判断は非常に難しい。今皆のご意見を伺ってもそのように思っている。

この政策テーマを政策討論会というのを目指して何か委員会で扱いながら、それを議会全体の活動に結びつけていくというところからこの政策テーマをこのように、委員会で何か決めて取り組もうというところに立ち返ると、自分の公民館のあり方というのも、これは既に運用が始まっているものに対して所管事務調査や日ごろの活動の中でいろいろ意見も執行部と交わしていくことができるのかなというところで、政策について議論していこうと、このテーマとして選ぶのであれば何かしら議会としての成果が見えやすい、先ほど私が提案したテーマについては議会としては取り組みやすいのではないかと、タイミングのもと佐々木委員がおっしゃってくれたが、何かそういうもののほうがよいかというの思っている。それはダイバーシティの推進に限らずだが。

先ほど西田委員がおっしゃったように、議員提案で条例をつくらうとか。ダイバーシティの推進、これは議会からの条例改正を提案しようみたいなところがゴールとしてあるので、そういったものを見据えた政策テーマの取り扱いがよいかとは思っている。

僕も高校魅力化とかすごく関心があって、今でも注目しているが、例えば高大の連携といった具体的な活動になっていたときに、例えば水産高校と連携しながら地域の人が何か製品をつくるようになっていくくらいまでブレイクダウンしていくと、産業分野に行ったり、結構、個別の所管以外の分野に及んでいきそうな気配も少ししつつ。具体的に何か取り組

もうとすると少し、総務文教委員会の域について、大きい意味では学校連携なのでうちが所管だと思うが、気持ち的にこうなっていくそうなので、そうなったときに最後までやり切れるか懸念もしつつ、皆の意見を伺っていた。

個人的にはDXのところも今まで行革でも提言の中に入っていて、昨今ではアフターDX、そういう機器を導入したがその後どうなったかという議論がされ始めているので、そういったところに対する政策提言もすごくおもしろいかと思いながら聞いていた。

どれもすばらしい意見なのだが、このテーマとしてどういうものが扱いやすいかというの、一つの判断材料にすると委員会としては取り組みやすいかと思う。

永見委員長

皆にご意見を伺ったのだが、皆それぞれ重要なことばかりなので、これをどうまとめて決めていくか大変な作業になるのではと思っている。まして前は幼児教育の問題を取り組ませていただき2年間やってきた。その前には総務文教委員会として公共交通についてやって、福岡県八女市に視察に行かせていただいた。

今回はまた新たに教育問題も含めてだが学校の問題、人材育成の問題、副委員長に言っていただいたダイバーシティの推進、などについてご意見があったわけだが、これをどのように今後調整しながら決めていくかを、どのような形で進めさせてもらえばよいのか私も苦慮している。

三浦副委員長
西田委員

前回もこのような感じだった。

生みの苦しみ。委員それぞれの思いがあって、それをいかにまとめていくか、方向を一つに絞るか。皆で一緒に苦しみながらどこかでぽっと出る。

永見委員長

前回もこうして前委員長を含めていろいろ協議させていただき、幼児教育に決まるまでには相当時間を要した経緯がある。今日こうして皆のご意見を伺うと、どれも重要なことだったので、少し時間をかけて調整して、皆の同意をいただけるテーマに決めさせていただければという思いは持っている。

芦谷委員

今まで福祉環境委員会で認知症条例を提案したことがある。これを考えてみるとしよせん議会なので、なかなか執行のところまでできない。したがって、もしやるなら理念条例も含めてやる。言いたいのは、最終目標をある程度互いに共有しながら、条例化するなら条例化しようということを初めに思わないといけないし、やってみて、どうだこうだということにははいけないと思う。

例えば条例でなくても政策を具体的な政策にして、柱にして提言するのも方法だろうし。その辺は2年間かけずとも各委員から出された分の課題について、これということになれば、しっかり議論すればよいし。場合によっては、例えば公民館だとすれば執行部からしっかり公民館のありようについて今の思いを出してもらい、議員からも突き合わせをして、私とすれば、もし公民館ならばと終わる感じがする。テーマの濃淡によって少し入り口のところで議員同士の意見交換をして共有したらと思っている。

永見委員長

芦谷委員から貴重なご意見をいただいた。今日こうして各委員からご

意見いただいたものをもう一度ここで時間をかけて協議しながら決めさせていただければと思うがいかがか。

三浦副委員長

それぞれのご意見を尊重するのが前提の上なのだが、そこはずっと尊重していると決まらないので。

私は芦谷委員の先ほどの話を伺いながら、別にこれに選ばれなかったから扱わないとか、これに選ばれなかったから何もやらないというわけではないので。例えば問題提起する中で、では皆で一緒にその現場を見に行こうではないかと、そういう視察みたいなものがあったらよいと思う。

その先に、ゴールみたいなものを共有できればそれに向けて取り組んでいく。現場を見て現状把握にとどめるものがあったら、それはものによってだと思うが、そういう部分を踏まえながら、委員長のご意見もあると思うが、そういうところで少し決めればよい。あまり、長く意見を突き合わせていても、皆それぞれの正義と主張があるので、どこかで線引きしてもよいのではと思ったりする。

永見委員長

芦谷委員が言われたように、やはり条例制定まで進めていければ最高なので。そこも視野に入れながら皆と協議して決めていけたらと思っている。

佐々木委員

今いろいろ聞きながら気づきがあったのだが、この委員会の中で動いて、このメンバーで決められることというのがわりと取り組みやすいことだと思う。ただ、先ほどの高校生や大学生といった方々に動いてもらう、あるいはまちづくりセンターの職員を動かすといったことになる、これはなかなか重いものになってくる可能性があるのだが、それはそれなりの価値があると思うし。

今副委員長に言われて気づいたのだが、まだテーマを決めるまでの段階で現場調査、こういうところが気になるのだが行ってみてどういう問題があって、これは何とかしなければということが出てくる可能性もあるし、そういったこともこの委員会の大事な仕事というか使命なので。所管事務調査の一環になることでもあるし、決して出ているテーマに限らず、団体や場所も含めて広く視野を持ちながら絞っていくのも一つの方法だと思う。

つまり相手を動かさない取り組み、このメンバーで決める取り組みは非常にスムーズに行けるだろうという気持ちもあるのと、もっと広くテーマを決めるまでに動きながら聴取しながら決めていく方法もあるのでは。今出ている課題だけに限らず。そのようなことを感じた。まだ全然絞れてないのだが。

永見委員長

佐々木委員

今佐々木委員が言われたように、テーマによっては。

それと、確かに条例制定ができれば一番、委員会の存在感も出るし、よいと思うし、それまでの提言どまりでもよいと思うし、あるいはもうちょっと下の、こういった問題がこの現場でこの団体にあるので、ここを何とかしてほしいといったいわゆる市長への要望の範囲でも、僕は十分この委員会としての機能が果たせることになるので、あまり大きなものを。結果としてそうなればよいが、気軽にできるところから取り組んでいくのもよいと思う。そこで課題について要望していくことができ

三浦副委員長

れば、それはそれでこの委員会としてしっかり機能していることになるので。どこを目標にやるかも少し考えながら。

佐々木委員のおっしゃったことを踏まえて僕はダイバーシティの推進を提案したのだが、それはなぜかという、自分一人でこれを、こういう機運をつかっていこうとか、執行部を動かしていこうというのが、今の状況だとなかなか難しいと思ったからである。

それを、きちんと条例をつくらせている先進地を見てみると、やはりそういう概念を教諭するために条例を制定しているわけで、そこまで動かしていこうとなると個人の思いだけではそこまでたどり着けないので、委員会の中で問題意識を共有しながらそこを一緒に目指していきたい、いけたらよいという一つの、自分の問題意識をさらにほかの人にも伝えていながら、機運がつかれるとよいと思ってこのテーマを提案したところはある。

永見委員長
西田委員

いろいろご意見をいただいた。いかがでしょうか。

大分いろいろな意見が出たので、次回くらいで絞り切れるのではないかという気がするが。

永見委員長

皆から今貴重な意見を頂戴したわけだが、このあたりである程度まとめさせていただき、次回の委員会でそのあたりを決められればと思う。今日は時間的にも、もう5時間際になっているので、このあたりで今日いただいた意見を含めて次回、もう少し皆と協議を重ねていき、決まるのであれば次回でも決めさせていただければと思う。いかがか。

三浦副委員長
永見委員長

では日程調整を。

では日程調整をさせていただき、次回は今日いただいたものをまとめさせていただいて、お示ししながらやりたい。

三浦副委員長
永見委員長

こちらから提案するということか。

今いただいた意見をまとめたものをお示しして、それからこちらからの意見を述べさせてもらってもよいし、皆の意見を含めてすり合わせさせていただければと思う。

佐々木委員

そういう形でよいと思うが、皆の意見をあまり聞きすぎるとなかなか進んでいけないので、ある程度、委員長の思い、副委員長の思いも提案していただきながら進めたほうが、進みやすいかもしれない。

芦谷委員

今の佐々木委員の意見だが、やはり我々、正副委員長を除くほかの委員も今日言ったことに責任を持つという意味で、自分なりにさらに前に進む、具体的な提案というか思いを整理して持ってこなければいけない。正副委員長に任せ切りではなく、各委員として、さらにどう思うかをそれぞれ持ち寄っていただいて。

永見委員長

そういうことで次回にはまた貴重な意見をお伺いできるということで、今いただいた意見はまたまとめさせていただいて、また副委員長と相談しながら、正副委員長の思いもまた含めてお話しさせていただければと思う。

2. その他

永見委員長

では次回についていかがか。

《 日程について協議 》

では次回は年明けて1月17日の10時からということでお願いします。
以上で、総務文教委員会を終了する。

[17 時 5 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 永見 利久 ㊟